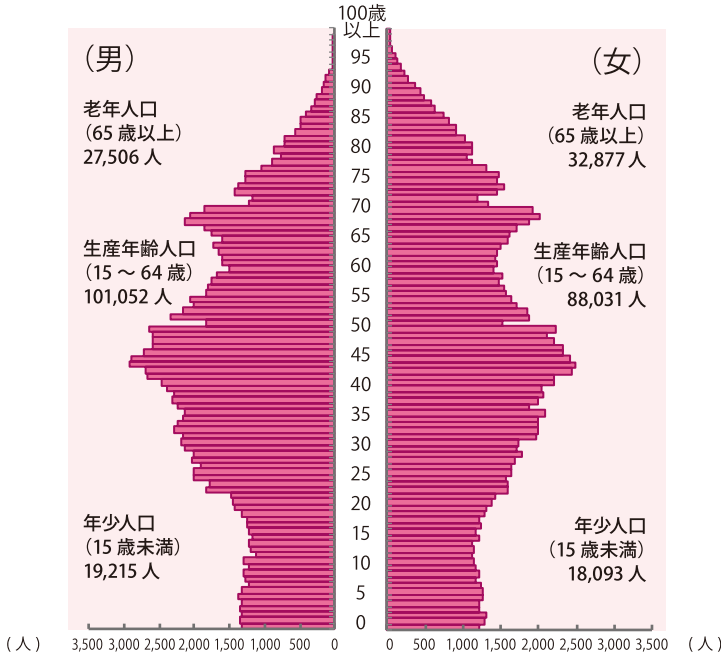


2 年齢別の人口

● 人口ピラミッド

鶴見区人口ピラミッド (H30.1.1現在)

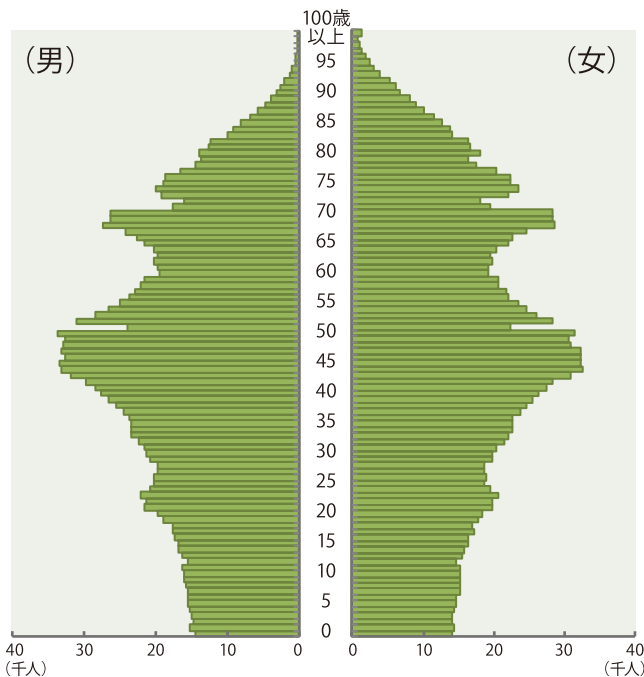


鶴見区の人口ピラミッドには大きく2つの特徴があります。

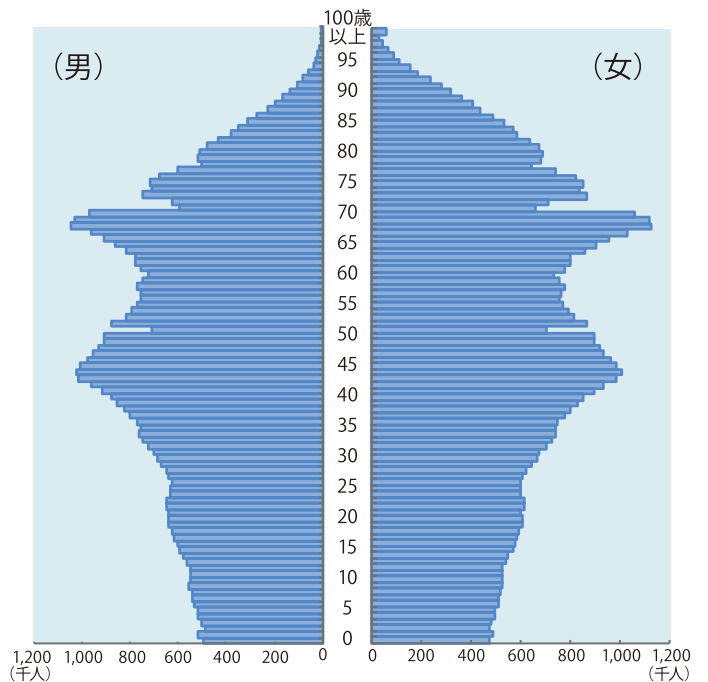
- ① 40歳代の第二次ベビーブーム時期の人口が、60歳代後半の第一次ベビーブーム時期の人口より大きな山を描いています。
- ② 0～10歳までの人口比率が高く、ピラミッドの裾野が全国及び横浜市のピラミッドに比べて広がっています。

資料：横浜の人口 年齢（各歳・5歳階級）別男女別人口
総務省統計局 年齢（各歳），男女別人口及び人口性比
総人口，日本人人口

横浜市人口ピラミッド (H30.1.1現在)



全国人口ピラミッド (H29.10.1現在)



● 人口増減・社会増減・自然増減の数 (平成29年中)

資料：横浜の人口 人口動態と年齢別人口

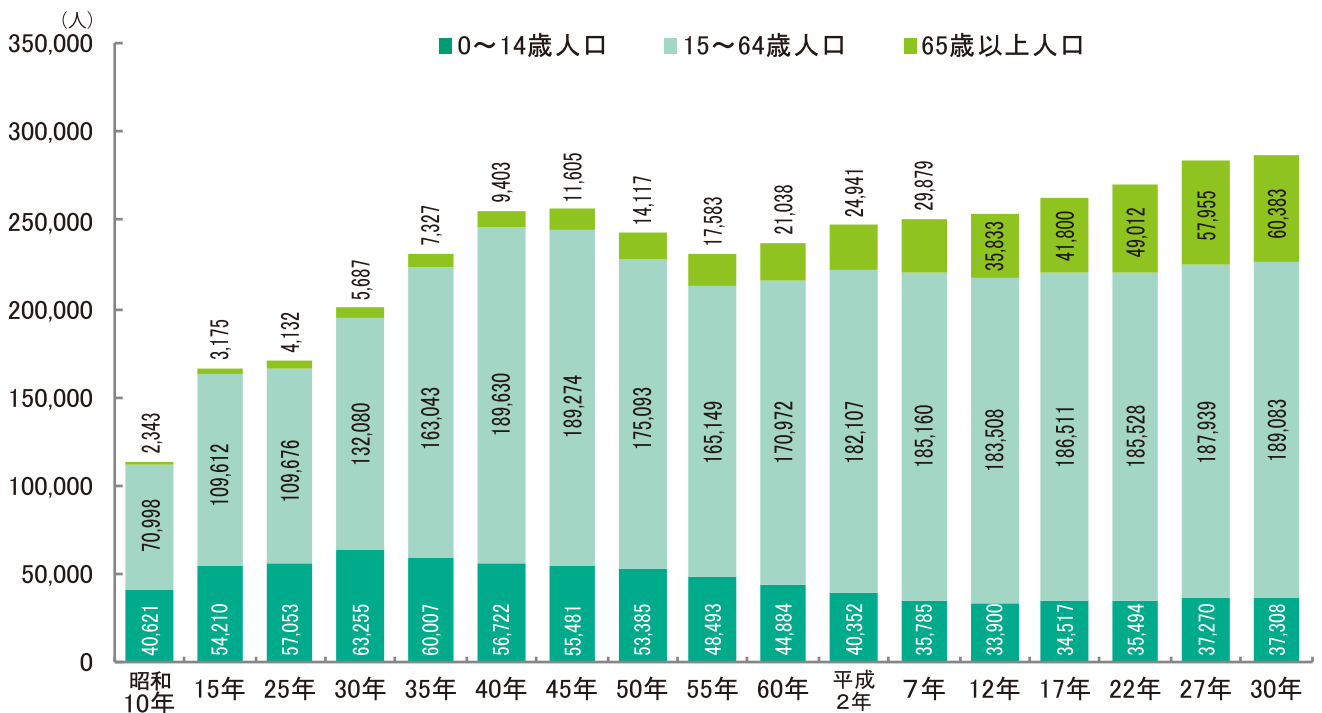
	人口増減	社会増減	自然増減
鶴見区	1,515人	1,361人	154人
横浜市	1,988人	6,061人	-4,073人

● 行政区別平均年齢 (H30.1.1現在)

資料：横浜の人口 男女、行政区、年齢3区分別人口、年齢構成指数及び平均年齢

平均年齢が低い区	順位	平均年齢が高い区
都筑区 (41.75歳)	1位	栄区 (48.14歳)
港北区 (43.25歳)	2位	旭区 (47.95歳)
鶴見区 (43.78歳)	3位	港南区 (47.55歳)
青葉区 (44.06歳)	4位	金沢区 (47.42歳)

● 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査（各年10月1日現在） ※平成30年は1月1日現在推計人口

年齢3区分別人口をみると、老年人口の増加が進んでおり、平成12年に15歳未満の年少人口と、65歳以上の老年人口の数が逆転したあと、近年その差が広がる傾向にあります。また、15歳未満の年少人口は、昭和30年以降減少していましたが、平成12年以降は、微増しています。



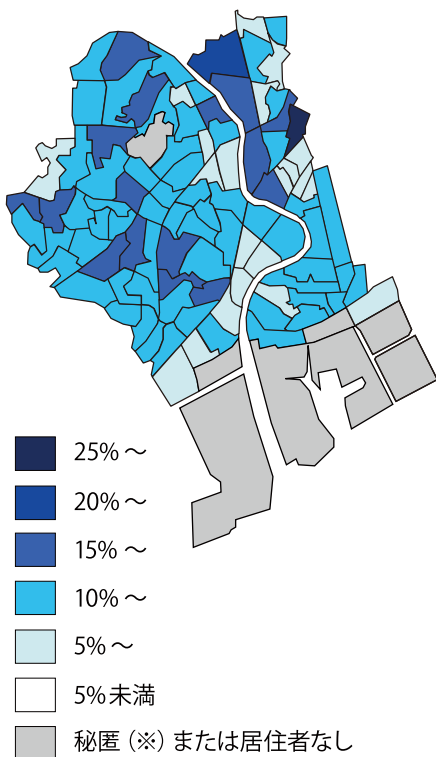
65歳以上の老年人口の割合が年々増えているね。



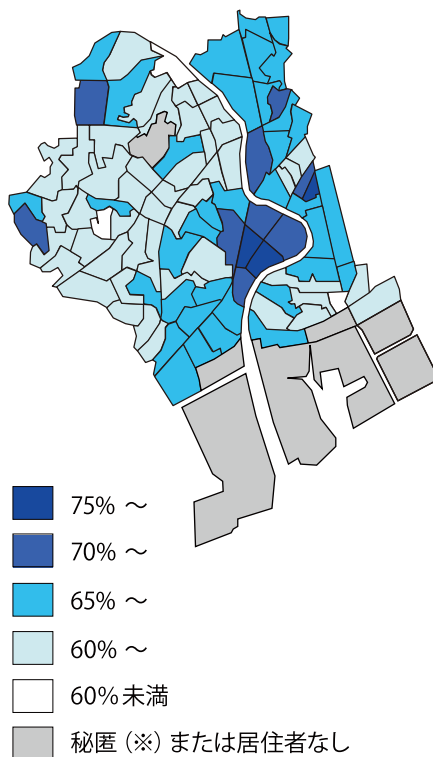
地図で見る鶴見 ～年少・生産年齢・老年の各人口比率～

資料：住民基本台帳（平成30年3月31日現在）※大黒ふ頭、扇島は省略しています

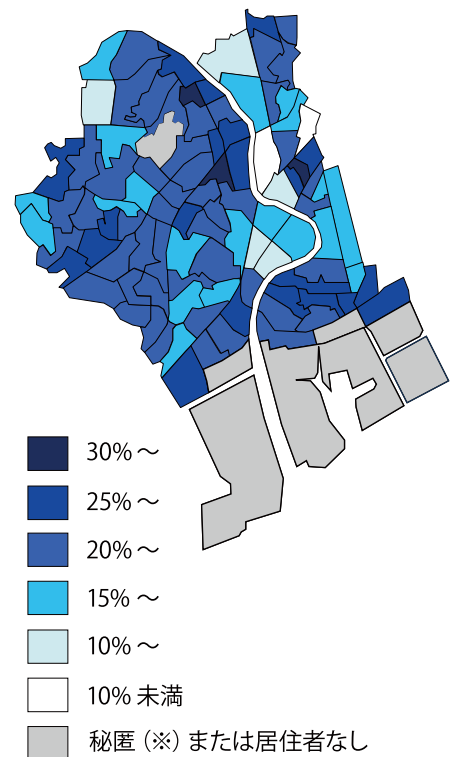
年少人口（15歳未満）人口比率



生産年齢人口（15～64歳）人口比率



老年人口（65歳以上）人口比率



（※）データを示すことで個人が特定される恐れのあるものは「秘匿」としています。